

告 辞

本日ここに、平成二十一年度、東京農工大学大学院の秋季修了式を挙行することになりましたことは、誠に喜びに堪えません。

本日、博士後期課程を修了されましたのは、工学府八名、生物システム応用科学府四名、連合農学研究科二十八名であり、課程博士の合計は四十名となります。また、連合農学研究科から二名の方が論文博士となられました。修士課程を修了されましたのは、工学府二名、農学府二十二名、生物システム応用科学府三名、合計で二十七名です。晴れて学位記を授与された六十九名の皆さんに、心よりお祝い申し上げます。また、ここには参加されてはおりませんが、この日を待ちわびておられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思います。心よりお祝い申し上げます。新たに修士あるいは博士の学位を取得された皆さんには、これまで皆さんを支えてこられたご家族やご指導をいただいた先生方などに対して、改めて感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思います。

さて、博士課程を修了された皆さんはこれからひとり立ちした研究者・技術者として社会で活躍されます。修士課程を終えられた方々も社会に出て活躍される方が多いと思います。これまでに習得した専門知識に益々磨きをかけ、その分野でのスペシャリストとして成長されるように大いに期待しております。

皆さんがこれから活躍される社会は厳しい競争の社会です。自立した主体的な行動が求められるでしょう。皆さんが大学で学んだものは、多くの場合、これからの社会での活躍に必要な知識そのものではありません。しかし、それは仕事を進める上で必要な知識を自ら学び、習得する力を与えるものなのです。仮に学んだものが仕事に直接的に役立つ専門知識であったとしても、それは数年で陳腐化してしまうでしょう。学ぶことは学位取得で区切りが付くわけではありません。これからは、仕事をしつつ学ぶ毎日ということです。

現代の科学技術上の多くの問題は複合的です。地球温暖化への対応、化石エネルギーからの脱却、深刻な感染症対策、それらの下での安全な食糧増産など、どれも広い分野の課題が極めて複雑に相互に関連したものとなっております。このような地球規模の難問を直接的に扱う場合でなくとも、これらを間接的に考慮に入れた取組が必須となり、これらを避けて通るわけにはまいりません。一つの製品を開発する場合を考えても、それを作るのに必要な資源やエネルギーの問題、製造過程での廃棄物の問題、製品が社会へ及ぼす影響やその役目を終えて廃棄あるいは回収される過程まで含んだ環境問題など、一つの専門分野をはるかに超える課題を考慮せねばなりません。すなわち、製品開発に直接的に関わる深い専門知識が必要なことはもとより、製造から廃棄に到るまでの過程に横たわる種々の課題を考えると、幅広い知識に裏打ちされた総合的な判断力が求めら

れることとなります。皆さんには幅広い基礎知識に裏打ちされた高度な研究者・技術者として成長していただきたいと思います。そうなるには日々の学習が必須です。大学を離れても、日々学ぶ心を持ち続けて下さい。

「教育とは自分の頭で考えることを教えていくことだ」といわれます。本学の教育の理念である課題の探求能力と解決能力の育成はまさにそのことを指しているわけであり、また、本学の基本理念は MORE SENSE です。美しい地球持続のために、教育と研究に全学が一丸となって進もうという意味です。これらの基本理念と教育理念の下で学び、本日学位を授与された皆さんこそ、これからの世界を担うに相応しい期待の星であると言ってよいでしょう。皆さんはこれから色々な課題に遭遇するでしょう。その解決法を自らの頭で考え、そして行動することが求められます。その積極性を常に見失わないで下さい。我々は皆さんをそれに応えうる人材として、自信を持って社会に送り出したいと思っております。

本日の修了生の中には、十五カ国から十五名の課程博士を含む四十名の外国人留学生が含まれております。留学生の皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、学位を取得されました。今日までの努力に対して深く敬意を表します。母国に帰られる方々には、日本で学んだ専門知識を生かし、自然環境との調和のとれた母国の発展に大いに寄与されることを祈っております。皆さんには母国に戻ってからも、本学との関係を密に保っていただきたいと思っております。

本学は世界各国からの留学生が学ぶ国際感覚あふれる大学です。皆さんには在学中に多様な国からの多くの友達と知り合うことができたことと思います。その国際的な人的ネットワークは皆さんの宝物になるでしょう。今は、通信手段、交通手段が飛躍的に発達し、空間的、時間的距離が劇的に縮まってきております。しかも、問題解決への取り組みが国際的広がりを持つものになり、一国の枠を超え、世界各国との相互理解と相互協力の下で進めることが必須という状況になってきております。皆さんが築いてきた人的ネットワークはそのような場合に大きな力となるでしょう。

最後になりましたが、今後とも皆さんが心身ともに健康で、これまでに修得された学識と技術を存分に活かして活躍されますよう祈念し、また、本学のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げまして、ここに告辞いたします。

平成二十一年九月一六日

東京農工大学長 小畑 秀文